

風土・土木 歴史公園がほしい！

（提案趣旨）

有史以来わが国は優れた土木技術でもって、生産・生活基盤を築いてきた。この延長上に今日及び未来の社会インフラがある。そこで、歴史とともに変遷した土木技術を学ぶ場を提供する公園と、九州内の主要な歴史的建造物情報を一堂に集めた電子情報空間を設置する。

（本文）

1．あまりに低い理想

最近の世相を見て感じることは、一つには理想とする姿がとて低くなったように感じることです。評論家の大宅壮一は、テレビにかじりつく国民をみて「一億総白痴化」と呼びました。それは、知的レベルの低位均質化を意味します。また、近年の公共事業の抑制に伴って、戦時中の、ほしがりません 勝つまでは、ではありませんが、望む社会資本の質のレベルも低下しているように思えます。個人レベルでも公共レベルでも。

街を歩くだけでも、歩行を妨げる裸電柱、でこぼこ道、車がすれ違えない狭い道、目を被いたくなる乱立する看板。どぶ川と化した かつての「春の小川」。安全なはずの街中で頻発する洪水。土石流やがけ崩れ etc . ましてや美しい国土の復元など夢のまた夢です。

じっと我慢の子！ 飛躍のための我慢ならばわかるのですが…。日本人は耐えることが大好きな国民にさえも思えてきます。

2．高い技術水準

日本は災害の見本市とも言われるほど、あらゆる災害に遭遇する風土上の宿命を負っています。が、それゆえに、それを克服する高い技術を擁してきました。法隆寺五重塔の耐震設計の妙。巨大構造物である、土対土の古墳が円弧滑りもせず存在しえる高度技術。世紀を超えて活躍する石橋。洪水制御や溜池技術…。現代の高度技術はいうに及びません。

3．保存と公開

私達の祖先は、自然からの恩恵を享受し、自然の脅威から身を守るために、創意工夫、科学技術を発達させてきました。それらの結果が、今日の総合的な生活基盤・生活環境で、自然、文化、科学技術がたくみに織り成されているといえるでしょう。未来に向かってたえまない進展が必要です。今日が、明日が、その歴史の積み上げなのですから、特に、その支柱である社会資本形成に不可欠な「土木技術」の発達や風土との係わり合いの歴史を学び、継承することはとても大切なことと思えます。

そこで、特に、子どもたちが、地域風土と交わりのなかで生まれた土木技術の歴史パラマを一望できるよう、次のような公園の建設を提案します。

4. 公園のアウトライン

構想は、次のとおりです。

センターとなる「風土・土木 歴史公園」を一箇所に設置します。太古からの土木技術史が分かるレプリカ等を陳列し、様々な技術の説明コーナーを設けます。そこにすべての建造物を一堂に集積するのではなく、その代わり電子博物館を設置し、九州の歴史的な建造物等を一望できるようにします。たとえば、「橋の館」にアクセスすれば、めがね橋、通潤橋、若戸大橋、天草五橋のことも、現場への道順も実物にも出会える。「墳墓」を引けば古墳に関する公園（西都市 etc.）の存在を知る、といった具合で、どこにどのような史跡があるか検索し、肉薄でき、実際、行くことで現物にめぐり合えるようにします。つまり、九州全土に点在するそれらとネットワークした公園です。また、観光地には地域風土のみならず土木建造物との出会いがあります。そこで、博物館は観光地への道案内もかねます。

電子博物館

橋	峠越え	洪水防御	古墳	水資源	トンネル etc .		
住	通	農	水	遊	学	噴火	風

上に掲げた項目は、いずれもわが国の生活とは切り離せない事物の例示です。電子博物館で、画面をクリックしていくと、地域が狭まって、たとえば、「橋、水」からは熊本県の通潤橋が示され、道順や、道の駅、季節や観光案内も表示される仕組みです。

【事例】

海、公園、魚類	海ノ中道海浜公園	噴火、湖	霧島連山の〇〇・普賢岳の* * *
海峡、橋	若戸大橋、関門海峡大橋	棚田	著名な九州の棚田一覽
滝	九州の有名な滝一覽	巨大樹木、照葉樹林帯	綾町、屋久島 etc .
大断層	鹿児島湾・桜島沿い国道	外輪山	阿蘇
コースの選択	ルート沿いの観光地	テーマの選択	(例)温泉地めぐり

要は、私達の生活基盤がどのように形成されてきたのか、それを感じ、学び取ってくれる公園（及び情報センター）を、九州規模で展開しようとするものです。

5. 啓発活動の必要

子どもに夢を与える必要を今ほど強く感じることはありません。ビルの谷間の喧騒で豊かな感性は育たない！ いまこそ、夢を描ける環境を子どもたちに与えなければなりません。それが、高い理想を胸に秘め、いずれ実現へと向かう原動力になっていくからです。高杉晋作も坂本竜馬もはるかな海を望みながら夢を膨らませていったことでしょう。夢を

見る能力を涵養するに足る環境を与えることが今やとても大切です。この公園は、微力ながらその一つ、あるいは導火線ともなれば、との淡い期待があります。当然、国民にとって最も基礎的財産である社会資本の整備への関心を高め、ゆくゆくは、より豊かな国土形成を目指すものです。

設置場所は、修学旅行生や観光客が九州入りして立ち寄りやすいところ。道の駅以上の情報のスケールで、楽しくわくわくしながら立ち寄れるところが好ましいと思います。なお、「風土・土木 歴史」と呼んだのは、地域風土の特性に応じた土木技術が地域ごとにあったらう、自然対人智の関係が土木技術であるとの想定からです。

・ 公園・資料館 = 面白広場。各種模型などの展示。学習の場。

・ 電子博物館 =

- 1 . 九州・沖縄一円の主たる歴史的土木建造物。その説明。アクセスの方法。文献検索。
- 2 . 九州・沖縄の観光地の風土的・土木歴史的な見所、アクセスの紹介等。
- 3 . 魚釣り、木登り、草スキーなど、九州各地の遊びかたも伝授します。

